

自動車保険
組員一人一台!
 組合損保係へ
☎35-2880

酒田建総

発行
酒田飽海建設総合組合
 教宣部長 佐藤 智哉
 酒田市ゆたか三丁目7-12
 TEL (0234) 35-2880
 FAX (0234) 35-2881
 http://www.akumi-kenso.com/

なくそう労働災害事故 安全パトロール強化



近年の山形県内における労働災害発生状況は、庄内労働基準監督署の説明によると、木造家屋建築工事の墜転落が多発している、とのこと。発生時間は九時から十二時、年齢別では五十から六十才代で、経験年数では二十年以上の方が多くなっているよう

す。いつの時代も、墜転落事故や災害を防止していくことは大事です。引き続き安全対策の講習会の実施や、組合における安全パトロール等を積極的に展開しながら、一人の労働者犠牲者も出さない決意で、安全対策に取り組んでまいります。また、一家の大黒柱が事故にあうと家族の全員に影響を及ぼします。事故にあわないように一人ひとりが作業安全に気をつけたいものです。



昨年、木建対と労働部では、年に二回の安全パトロールを実施しました。七月の全国安全週間県下一斉パトロールでは、酒田飽海管内十四ヶ所の巡回指導を行いました。十二月の「冬の労働をなくそう運動」冬期安全パトロールでは、庄内労働基準監督署とともに、酒田管内十五ヶ所の巡回点検を実施しました。チラシを配布しながら、作業安全に対する注意喚起「声かけ」をこれまで以上にいたしました。が、とても心よく受けとてくれたようでした。

足場先行工法、手すり、中さん先行工法の活用等による墜転落防止、スリッパ転倒など冬特有の災害防止、保護帽安全帯など適正な保護具の使用、機械工具丸のこ等の取り扱いなど、適切な作業と安全対策は常に一体でなければなりません。これからは安全パトロールを通じて災害防止に努めるとともに、庄内労働基準監督の指導を受けながら周知に取り組んでまいります。

〔記 伊藤 茂生〕

◇パパと一緒にチャレンジ
 ●親と子の木工教室
 酒田市教育委員会社会教育課主催で、文化センターコミュニティホールを会場に、十一月二十四日(日)、三才児対象の木工教室が開かれ、

木のぬくもりを知ろう

◇DVDラック作りに挑戦
 ●吹浦小学校で木工教室
 十一月十三日(火)、三年生十人、四年生十四人が木製DVDラック作りに挑戦しました。児童たちに木のぬくもり、

当初は、親御さんがほとんどの作業をする流れになると思っておりましたが、子ども達も積極的に釘を打ったり、ペーパーをかけたりと、パパと一緒に組立仕上げを行っていました。三才までの小さな子ども達ではありましたが、

一生懸命で、釘打ちの上手な子ども達でした。父子で協力して真剣に作成している姿、笑顔でプラントナーを持って帰って行ったことを、大変嬉しく感じました。子ども達にもっと木の温もり、良さを実感させながら、製品をともに創作する喜びと、達成感を味わう体験の場を企画して戴ければと思います。

良さを感じてもらおうとにも、ものづくりの楽しさ、喜びを味わってもらおうと、当組合が材料、道具などを持参し、五年前から酒田市遊佐町の小学校で出張木工教室を開催しています。

この日は、当組合の技術部員四名が吹浦小学校を訪れました。児童たちは、五、六人ずつグループを編成。部員らの指導を受けながら、まず板に釘を打つところに線を引かせ、次にキリで穴を開けて釘を打ち、四角い外箱を作り、さらに中仕切を設け、後面に二枚の板をそれぞれの寸法で取付けして、最後に紙やすりで表面を滑らかに仕上げました。



木の香りっていいね

年頭のあいさつ

理事長 高橋 協 蔵

新年明けましておめでとうございます。今年も、組合員はじめご家族皆さんが健康で、福を招き商売繁盛の守り駒とされる「左馬」にあやかりながら、暮らしが駆け上がる年になることをご祈念申し上げます。



昨年、皆さんからご理解を頂き、建設国保を守り抜く活動の推進、賃金の引き上げを目指す「公契約条例」の制定や、「リフォーム助成制度」の拡充、若者にとって魅力ある建設産業にするための共済制度の充実、現状に即した改革など、

組合の総力を結集し取り組んでまいりました。その結果、道半ばではありませんが、ほぼ予定通りの成果を納めることができました。今年も、従来を再確認しながら、組合員の仕事と生活を守り、諸要求を前進させていく原動力となる組織拡大に向けて、積極的な活動を行ってまいりたいと思っております。

「最初は、釘を打つのが難しかったが、先生がたから教えてもらいながら作ることができました。」「本当に楽しかったです。」「DVDだけでなく本立、物入れなどに使えますね。」など、話してくれました。間違った点を修正しながら約二時間、児童全員が生懸命取り組んで完成を迎えました。いい体験になったと思われま

〔記 菅原 正敏〕

三職種上位入賞達成!!

平成二十五年十一月十六日(土)、河北職業高等技能専門学校において大会が実施されました。

例年ですと、訓練生技能競技大会として行なわれていたが、国の方針で、若者のものづくり育成に力を入れていく、との考え方から、若年技能者競技大会に名称が変更されました。

今大会の出場者は、建築大



工十五名、建築板金十一名、左官九名と、今大会初めて参加することになった塗装七名を加え、総出場者は五訓練校で四十二名となり、当訓練校からは、建築大工四名、建築板金一名、左官四名、合わせて九名が出場しました。左官職種ではここ数年休校していましたが、調べたところ平成十九年以後、暫らくぶりの出場となりました。開会式後、各職会場に分か

第1回 若年技能者技能競技大会

れ、左官が八時三十分、その他の職は九時に作業開始となり、限られた時間一杯真剣なまなざしで取り組んでいました。

競技終了後審査に入り、その後作品が展示され、訓練生や付添いの講師の方々といろいろと話されておりました。当訓練校の成績は、建築大工の佐藤淳史君が優勝、中村陽介君が第三位に入賞し、建築板金の佐々木大君が第三位に入賞、左官の金翔平君が第二位に入賞となり、三科すべて受賞となりました。

お忙しい中、ご協力下さいました事業主の皆様、講師の皆様本当にありがとうございました。(記 大井 初子)

咲かせる花の明日を熱演!

第五十一回家族慰安会

今回は台風の接近が心配されましたが、当日は天気にもぐまれ、まだ前回の盛大な五十回記念の余韻が残る中で、去る十月十日、希望ホールにおいて第五十一回目の家族慰安会が開催されました。

幕あけには、元氣はつらつとした主婦の会の踊りで始まり、第一部では、俵つみ唄などの祝い唄のほか民謡、踊り、歌があり、続いて浅草二十世紀の「フリーパー」によるお笑い盛りあげがありました。第二部では、メインゲスト

門倉有希のオンステージとなり、ヒット曲「ノラ」を始め、東日本大震災の復興支援ソングである「花は咲く」などを歌い、会場いっばいに明日への活力をふりまいてもらいました。

今回は広告の数、金額がかなり減るのではないかと心配されましたが、皆様のご協力により、若干の落ち込みで済み



私とも握手して

ました。入場者数も昼の部が八百三十一名、夜の部が七百八十七名で前回よりは減りましたが、会場から出てくる皆さんの満足そうな顔を見ると、今回も好評だったんだなあ、と思われました。なお、次回の慰安会も予定していますので、ご期待下さい。(記 佐藤 智哉)

「さかた産業フェア2013」に久しぶりの参加

今、若者の技能者不足が指摘されています。それで、ものづくりの仕事に若者が進んで就くようになることを願い、子供向けに二つの部門で「体験教室」を行いました。一つ

「さかた産業フェア」が十月五日(土)と六日(日)の両日、酒田市体育館で開催されました。



カラフルなタイルきれいだね

組合では、以前、「上棟式」などの実演や製作品の展示などを行い、好評を博していたと聞いていましたが、今回、久方ぶりの参加となりました。これは、山形県職業能力開発協会がバックアップするところから決まったのですが、組合員の腕と技を後世に長く引き継ぐためにも、「ものづくり」に親しむ環境づくりが重要と考えたからです。

「木製プランター」づくり、もう一部門は「モザイクタイルアート」づくりです。両日とも押すな押すな盛況で、多くの小中学生がものづくりを楽しんでいました。

(記 事務長)

健康教室

良い生活習慣を身につけ、ボケを寄せつけない暮らしを

平成二十五年健康教室を、健康ふれあいクリニック多目的ホールにて、所長の本間卓医師による講演「よい生活習慣を身につけ、ボケを寄せつけない暮らしをつくるために」を開催しました。



暴飲暴食はダメ

また、五十代を境に、炭水化物を少なく食べるとボケや病気になりやすくなるそうです。特に味噌汁、塩麴、醤油や納豆などの発酵食品は胃腸や脳溢血になりやすいというものでした。寿命は遺伝ではありませんが、毎日の生活習慣を見直すきっかけになり、これからの生活に役立つ健康教室になりました。皆さん、いつも楽しいことを想像し、大声で笑い、脳にいい生活を送りましょう。(記 金子 誠)

健康教室に不参加が多いのはなぜ?

A 健康教室は、生活習慣病予防を中心テーマに、専門の医師等からお話を頂き、組合員をはじめ家族の疾病予防と、健康増進に対する理解や認識を一層深めることを狙いに、年三回程度、組合本部と支部を会場に行っています。今年も、七月開催の「よい生活習慣を身につけ、ボケを寄せつけない暮らしをつくるために」、九月は「癌」にならないために出来ること、そして十月は「脳卒中」にならないために、なったら、何れも関心を引くテーマばかりです。

り、参加者からは「目から鱗が落ちた」などと高い評価を与えて頂きました。ところが、事務局として残念に思っているのは、お尋ねでもありませんが、期待外れに終わったこと。特に、支部での開催は、天候や時期的な諸事業との重なり等があったとしても、「もったいないな」と、率直に反省しているところ。他に、組合員に対する呼び掛けが不十分だったのか、それとも対象人数が支部のため少なく限定されたのか、何れにしても検証を行い、限られた時間、費用を有益に活用できるように考えてまいります。

お悔やみ申し上げます

H25年6月～H25年11月

支部	氏名	死亡月	年令	支部	氏名	死亡月	年令
第2	斎藤敏雄	H25年6月	60歳	松山	榎本武	H25年10月	93歳
大工2	高橋繁夫	H25年6月	84歳	第2	齋藤勇治	H25年10月	86歳
遊佐1	阿部文次郎	H25年7月	82歳	荒瀬	金野孝介	H25年10月	64歳
遊佐2	三浦正良	H25年9月	66歳	大工3	阿部正男	H25年11月	73歳
大工1	長沢清治	H25年9月	84歳	八幡1	佐藤茂	H25年11月	70歳
大工2	齊藤昭三	H25年10月	85歳	第1	佐藤武	H25年11月	77歳